

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
小倉都心地区

平成27年3月

福岡県北九州市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見		
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性			
指標1	商店街エリアを中心とした歩行者通行量	人/日	141,000	177,000	153,000	確定 見込み ●	△	あり なし ●	143,000	平成25年8月	△	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	大規模民間開発や市街地再開発事業が遅れた影響により、目標値は達成できなかったが、集客施設や高質な歩行空間の整備等により、増加に転じてきている。	
指標2	主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数	万人/年	147	197	176.5	確定 見込み ●	△	あり なし ●	189.7	平成26年3月	△	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	積極的なPRや歴史・文化施設に関連したイベント等の企画・開催により、目標値は達成できなかったものの、着実に来場者は増加傾向に向かっている。	
指標3	「道の歩きやすさ」に対する評価	%	49.5	53.5	55.4	確定 見込み ●	○	あり なし —	35.7	平成26年3月	×	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	評価値の算出にあたり、平成24年度の値を特異値として評価していたため。	目標値、従前値を下回る結果となったが、「歩きにくい」と評価する人は減少傾向にあることから、快適に回遊できる歩行空間の拡充により、一定の評価は得られていると考えられる。
指標4	「夜の安全度」に対する評価	%	13.9	16.0	13.4	確定 見込み ●	×	あり なし ●	13.2	平成26年3月	×	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	一時は目標値を上回る値を示したものの、治安悪化イメージの払拭ができず、目標値を達成することができなかった。	
指標5	小倉都心部におけるJR・モノレール駅の年間利用者数	万人/年	4,168	4,170	4,128	確定 見込み ●	△	あり なし ●	4,156	平成26年3月	△	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	取組み前は、都市間競争の激化等により減少傾向にあったが、多様なイベントの開催や都市空間の整備等により増加傾向に転じている。	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1	週1回以上小倉都心部を訪れる人の割合	%	51.3	/	61.7	確定 見込み ●	/	/	52.3	H26年3月	/	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	継続的かつ多様なイベントやまちのアメニティ向上により、小倉都心部に訪れる人は増加傾向にある。
その他の数値指標2	小倉都心部の居住人口	人	28,590	/	33,300	確定 見込み ●	/	/	32,403	H25年9月	/	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	都市基盤の整備等により、小倉都心部の居住人口は順調に増加している。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	まちの魅力向上・イメージアップに向けた施策の推進	・賑わいづくり推進する各種イベントの実施 ・漫画ミュージアムでの幅広い年代を対象とした企画展の実施	・賑わいを創出する継続的なイベントや、紫川を活用した新規イベントの立ち上げ等により、新たなにぎわいを創出できた	・地域主体のイベントを継続するとともに、より一層のイベント間の連携を図る ・安定的な賑わい確保に向け、昼間人口の増加を図る
	安全・快適な歩行者ネットワークの形成・強化	・城内大手町線の車道の拡幅と歩道の整備 ・小倉駅小倉城口ペDESTリアンデッキの整備	・周辺整備等、供用開始に向け工事の進捗に取り組んでいる	・円滑な道路交通網の早期完成、及び、歩行者ネットワークの強化・充実を図る
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	遊休不動産の利活用	・遊休不動産に関する情報提供の推進や、空き店舗を活用した新たな産業の育成 ・リノベーションまちづくりによる都市再生の推進	・空き店舗を再生したことにより、新たな雇用や交流が生まれた ・リノベーション手法を用いたまちづくりの取組が広がり、商店街地区における歩行者通行量も増加した	・継続した遊休不動産のオーナーの意識改革や起業者への情報提供により、更なる雇用創出を図る
	多様な交通手段による都心部へのアクセス向上	・新幹線口西地区の面的な回遊性を確保した市道浅野33号線の整備の着手 ・公共連絡通路の整備に着手	・現在、供用開始に向け工事の進捗に取り組んでいる(市道浅野33号線は、平成26年度末の供用開始予定)	・早期の供用開始に向け、事業進捗を図る
	コンベンション施設の利用促進	・アジアとの近接性を活かした国際コンベンションの誘致強化	・アジア関係団体等への展示会出展や新規イベント・展示会の誘致活動を行なった結果、幅広い年代の来場があり、来場者数は増加傾向にある	・更なるコンベンション施設の利活用のため、継続して国際コンベンションの誘致を強化する
	賑わいや回遊等の核となる拠点の整備	・市街地再開発事業の推進	・小倉駅周辺の回遊性を高めるとともに、街なか居住の促進や賑わいの創出につながる、新たな市街地再開発事業の事業計画が認可された	・市街地再開発など新たな官民一体となった集客核・回遊拠点の整備により、更なる賑わい創出を図る
	環境負荷低減等に配慮した都市基盤等の整備	・環境対策型の道路舗装	・環境対策型の道路舗装するとともに、自転車道整備により環境負荷の低減を図った ・市民の環境に対する意識啓発が図れた	・引き続き、環境負荷低減等に資する新たな技術の活用や自転車利用促進といった環境に負荷の少ない都心づくりを促進する

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項